

パラグアイ内政・外交報告（2021年5月分）
政治情勢

1 内政

（1）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連

ア ワクチンの不正接種問題（Vacunacion Vip）

3日、その時点での新型コロナウイルスワクチンの接種対象年齢（75歳以上）に達していないにもかかわらずワクチンを接種した要人がいた問題

（「Vacunación Vip」）が発覚したことに関し、国民から強い批判を受け、議員資格剥奪の可能性も取り沙汰されていたミルタ・グシンキー上院議員（コロラド党カルテス派、73歳）が、議員辞職を表明した。報道によると、接種対象ではないにもかかわらず、ワクチンを接種した疑いのある人数は約500人に上るとされる。厚生福祉省は、不正接種に関わった職員を処分し、本件に関する調査を行う旨発表した。

イ ワクチン調達関連

（i）14日、ロシア製ワクチン（スプートニクV）4万回分が到着した。

（ii）24日、アラブ首長国連邦から購入したワクチン（シノファーム、同国でのライセンス生産）25万回分が到着した。

（iii）24日、ボルバ厚生福祉大臣は、ファイザー製ワクチン100万回分の購入に係る事前契約を結んだと発表した。同大臣は、ワクチンの到着予定日に関しては守秘義務の関係でまだ公表できないが、書面での手続は6月中には完了する見込みであると述べた。

ウ コロナ治療費免除に関する法の公布

20日、政府は、コロナ入院患者の費用負担に関する法律第6742号（通称「コロナ支払いゼロ法」）を公布した。同法は、入院患者の医薬品、医療物資、検査にかかる費用を免除の対象し、資金源は、財務省予算、イタイプ及びヤシレタ二国間公団社会環境基金及び厚生福祉省予算となる。高額な入院費支払いのため、患者及び家族が家財を売って費用を捻出する例が多発していることから、国会が同法を立案し、政府に提出していた。

エ スペインからの医薬品供与

29日、スペイン政府から供与された新型コロナウイルス患者用医薬品（アトラクリオ2500個及びミダゾラム6万6645個）が到着した。本件は、ゴンサレス・スペイン外相のパラグアイ訪問時に表明された新型コロナウイルス対策のための支援である。

（2）アリアナ下院議長の2021～2022年会期の下院議長再選

5日、アリアナ下院議長（コロラド党カルテス派）が賛成64票で2021年7月1日から2022年6月30日までの会期の下院議長に再選された。アリアナ議長は、2019年から3期連続で下院議長に選出された（注：カルテス政権時の議長経験

(2017～2018年)を含めると、4回目の下院議長選出)。また、アンヘル・パニアグア下院議員(コロラド党)が第一副議長に、エンリケ・ミネウル下院議員(リベラル党)が第二副議長に選出された。

(3) 情報技術通信大臣の任命

25日付大統領令により、3月10日から情報技術通信大臣代行を務めていたフェルナンド・サギエル・コミュニケーション部門担当副大臣が正式に大臣に任命され、26日、大統領府において宣誓式が実施された。

2 外交

(1) コロンビアで発生した大規模デモに関する外務省声明

5日、パラグアイ外務省はコロンビア情勢に関するプレスリリースを発出し、コロンビアで発生している事態を注視しており、死傷者の発生を遺憾に思う旨表明した。また、コロンビアの強固な民主主義体制及び法の支配は、対話を通じた相互理解の実現を保証するものであると信じていると表明した。

(2) スペイン外務・EU・協力大臣のパラグアイ訪問

7日、アランチャ・ゴンサレス・スペイン外務大臣はパラグアイを訪問し、アブド・ベニテス大統領を表敬した。アブド・ベニテス大統領及びゴンサレス外相は、両国関係の重要性を再確認した。また、ゴンサレス外相は、大統領宛ての国王フェリペ6世及びサンチェス首相からのメッセージを伝達した。

8日、ゴンサレス外相とアセベド外相は第7回パラグアイ・スペイン政策協議を実施した。政策協議後の記者会見で、ゴンサレス外相は、スペインが合計2万トンの医薬品及び医療物資をパラグアイに供与すること及び6月以降に700万回分の新型コロナウイルスワクチンを中南米に寄付する意向であることを発表した。また、EU・メルコスールFTAに関し、両外相はメルコスール及びEU双方の利益のため、早期の締結が重要であると確認した。

(3) イスラエル・パレスチナ情勢に関するプレスリリース

12日及び13日、外務省はプレスリリースを発出し、イスラエル及びパレスチナにおける事態の悪化に対し懸念を表明し、ハマスによる攻撃を非難した。また、攻撃を止め対話を再開するよう呼びかけ、紛争の平和的解決に向けた多国間の努力を支持すると表明した。

これに関連して、18日、国会両院のコロラド党カルテス派議員グループは、ハマス及びイスラミック・ジハードの攻撃を受けているイスラエル及び同国国民に対する支持及び連帯の意を表明する声明を発表した。声明は、ペドロ・アリアナ・コロラド党党首、アントニオ・バリオス・カルテス派上院議員団長、バシリオ・ヌニェス下院議員団長の署名入りで、ハマスのイスラエルに対する3000発以上のロケット弾による攻撃は、戦争犯罪及び人道に対する罪に当たると表明し、パレスチナ国民を人間の盾として利用すること及びイスラエル国民を攻撃目標としていることを強く批難した。

(4) 韓国との航空協定署名

19日、アセベド外相とIn Shik Woo駐パラグアイ韓国大使は、二国間の航空サービスに関する協定に署名した。同協定は、2012年5月のルゴ大統領（当時）の韓国訪問時に両国の航空当局により開始された枠組みに基づくものである。同協定は、航空会社の機会の平等による競争に基づく国際航空システムを促進することを目的とし、また、競争力のある価格で、かつ、安全な国際航空輸送の機会拡大を目的とする。同協定に基づき、コロナ後の経済活性化に向け、両国の国際航空サービス発展に関する条件が策定される予定である。

(5) アブド・ベニテス大統領と外交団との懇談会

25日、アブド・ベニテス大統領は、ローマ教皇庁大使主催の外交団との懇談会に出席し、大統領就任から現在までの実績や新型コロナウイルスへの対応等について説明した。懇談会に同席したアセベド外相は当地メディアに対し、各国大使はパラグアイ政府の働きを評価したほか、ワクチン等、新型コロナウイルス感染拡大防止に対する支援のみならず、経済の再活性化など、コロナ後における連帯も表明されたと述べた。また、保健分野の協力のみならず、市場へのアクセス、河川運輸のさらなる活用、南米大陸横断回廊など、コロナ後の未来を見据えた国際協力についても協議したと述べた。

(6) パラグアイ・メキシコ外相電話会談

31日、アセベド外相は、エブラル墨外相と短時間の電話会談を行った。両外相は、二国間協力及び両国における新型コロナウイルスの状況につき協議し、新型コロナワクチンの平等なアクセスに関する見解を共有した。また、今後、対面での会談実施に向け調整を行うことで一致した。

3 要人往来

往訪：なし

来訪：アランチャ・ゴンサレス・スペイン外務大臣